

2013.10月

品質月報

Monthly Quality Report

10月号 INDEX

10月号 INDEX

PAGE 3 ……品質方針

PAGE 4 ……今月のトピックス

★ 今月のテーマは…
「J社長辞任で幕引き図る阪急阪神ホテルズ、
信頼回復は？」

PAGE 5 ……今月の品質状況

市場不良率推移

PAGE 6 ……品質状況詳細

市場不良発生状況(工程別、客先別)

PAGE 7 ……品質状況詳細

クレーム発生状況(クレーム発生推移、客先別)

PAGE 8 ……活動報告

設計審査(DR)標準見直し実施
スプレーフラクサー塗布状態の確認



SANSHIN GROUP



品質方針

サンシングループは、商社・開発技術・要素技術 これら3つの機能のシナジー効果と品質マネジメントシステムの効率的な運用により、お客様のニーズを満たす製品開発と安定的な製品供給をおこない、電機業界および社会へ貢献して参ります。

1. 事業活動において、いかなる場合も品質マネジメントシステムを厳守し、お客様に信頼される品質の提供につとめて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遂行を通し品質の向上につとめて参ります。
3. 各々のグループ会社および事業部において、事業活動に応じた品質マネジメントシステムの継続的な改善につとめて参ります。
4. 品質マネジメントシステムは、定期的な内部監査・マネジメントレビューをおこない、実態に沿った具体的な改善をはかって参ります。
5. この方針は文書化し、当グループのステークホルダーに対して開示をおこない、当グループの諸活動に関わるすべての人々によって一步一步、着実に具現化して参ります。

平成18年7月1日
サンシングループ
代表 石井宏宗



石井宏宗

今月のトピックス

「社長辞任で幕引き図る 阪急阪神ホテルズ、信頼回復は？」

今月は、10/29の産経ニュースからです。

阪急阪神ホテルズがメニュー表記と異なる食材を使っていた問題は28日、出崎弘社長が辞任に追い込まれる事態となった。背景にあるのは、阪急阪神グループの企業の経営に深刻な影響を及ぼしかねないとの危機感。トップ辞任によって問題の早期幕引きを図りたい思惑がみえる。

「ホテルズだけで収まることがなく、阪急阪神の信用問題にまで発展した。その責任は辞任をもって償うしかない」出崎社長は28日に開いた記者会見で、辞任の理由をこう説明した。

問題発覚後、系列ホテルでの宴会やレストランの予約キャンセルが相次ぎ、そごう・西武も系列のおせち料理の見本をいったん撤去するなど経営に影を落とし始めた。「阪急阪神のブランドが傷つき、グループ各社に悪影響が出かねない」(関係者)との声は日増しに強まっていた。

実際、市場は阪急阪神ブランドの毀損(きそん)を懸念し、阪急阪神HDの株価は問題が発表される前日の21日の573円から4日連続で値下がりし、25日には534円にまで下落した。

食の問題に対する消費者の目は厳しく、平成19年に料理の使い回しや食材の産地偽装が発覚した大阪の高級料亭「船場吉兆」は廃業に追い込まれたほど。角社長は阪急阪神HDの報酬の50%を当面返上することを決定。関西経済連合会の副会長職にある財界活動の自粛も示唆しているが、阪急阪神ブランドについての傷は深く、信頼回復への道は険しい。

自立品質の確保とは？

食材の虚偽表示は全国の著名なホテルや百貨店に拡大し、業界の各企業体質自体が問題となっています。

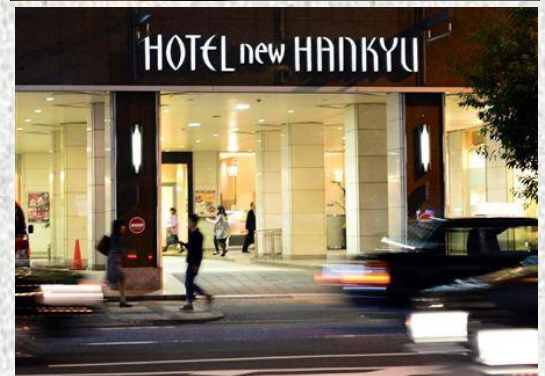
東洋医学の鍼や灸では、体の表面を刺激して、体の内側から変化させ、苦痛を和らげたり、回復力を高めたり、病気の治療や予防をおこなうそうです。患者さん自身の力をうまくひきだして、回復する方法です。品質問題を抱える企業も悪い症状にきくつぼがあれば、知りたいところです。

「ゴミが落ちている」「整理整頓ができていない」「作業手順が不明確」「不良品が管理されていない」「識別管理ができていない」「材料の不良が多い」「先入れ先出しができていない」など目に見える問題の多くは、社員が気づいているはずですが。



どこの企業にもあてはまりそうな問題ですが、このような目に見える問題点を改善することが本当の品質改善ではなく、目に見えている問題の背景に、見えていない本質的な組織の問題点をつきつめていくと、組織の構造的な問題や品質マインドの問題などにいきつきます。

弊社でも不具合の多発による信頼の失墜が続いています。個々の目に見える問題の要因をつなぎあわせて観察し、問題を見つけて本質的な原因究明につなげて行くことで品質問題を内から気づいて、自ら改善できるような自立品質確保について考えて行き、信頼回復につなげていかなければいけないと思いました。
(品証 林)



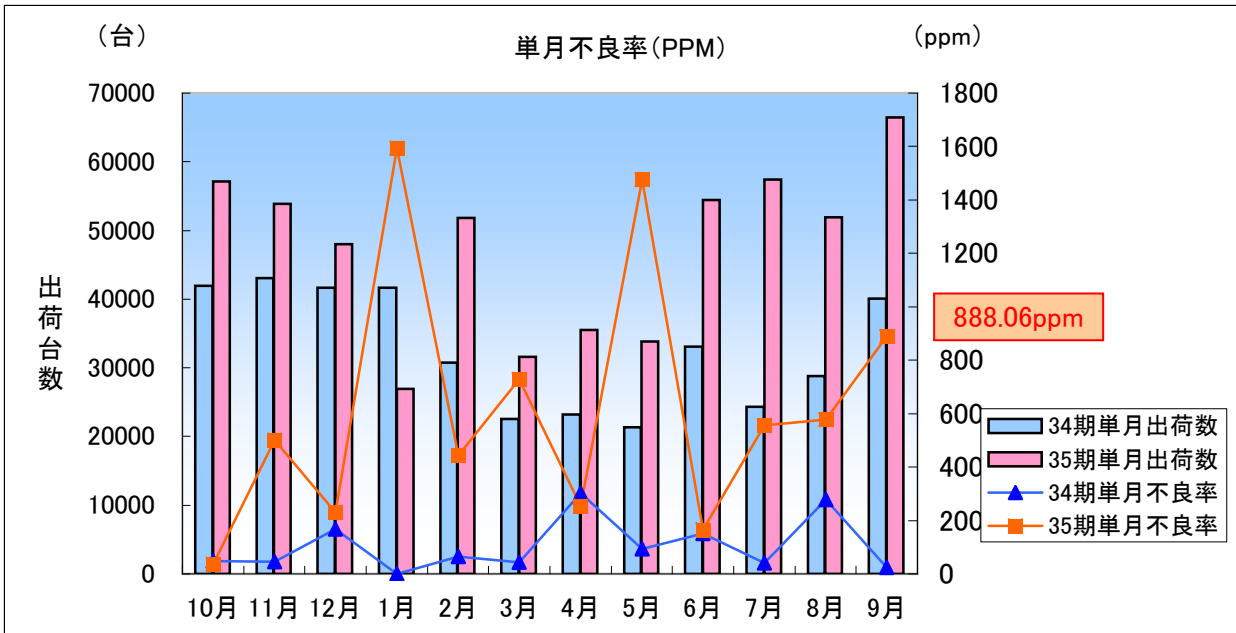
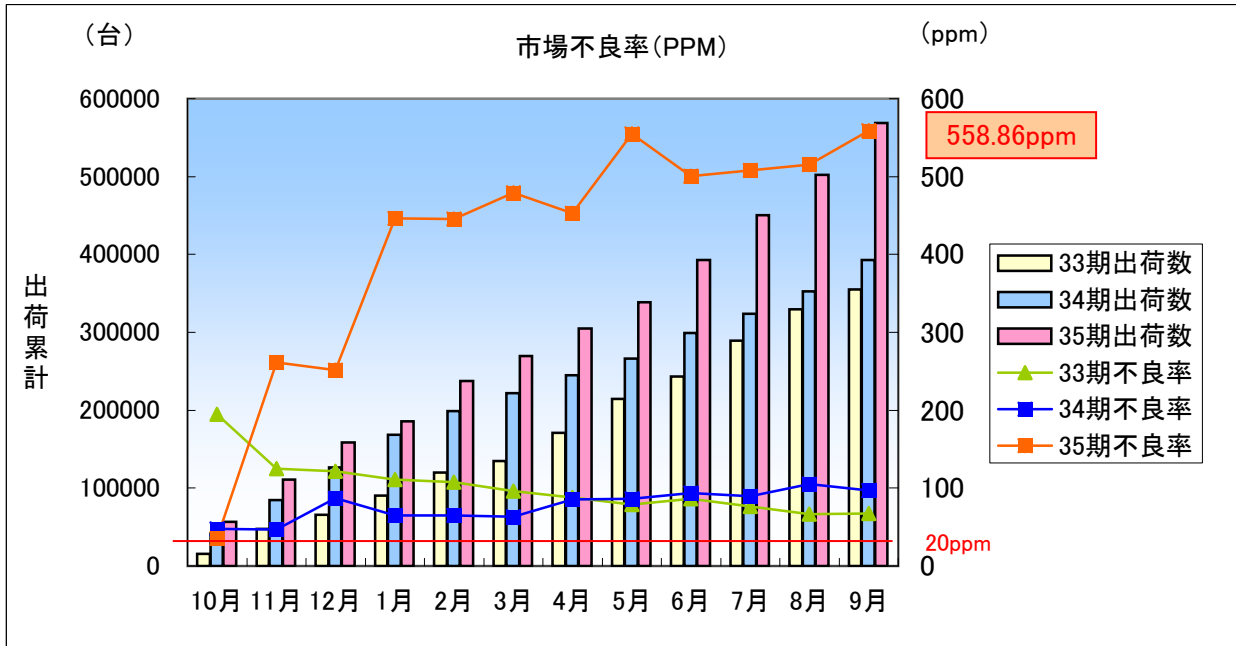
今月の品質状況

35期の旗印

納入不良率 目標……20ppm

35期の最終不良率は558.86ppmでした。

部品不良 257件 (455.17ppm) その内、MOSFET部品不良は累計で213件。
 発生不良の81%を部品不良が締める結果となりました。
 部品不良を撲滅しない限り36期以降の不良率改善は見込めず、36期の最重要課題です。

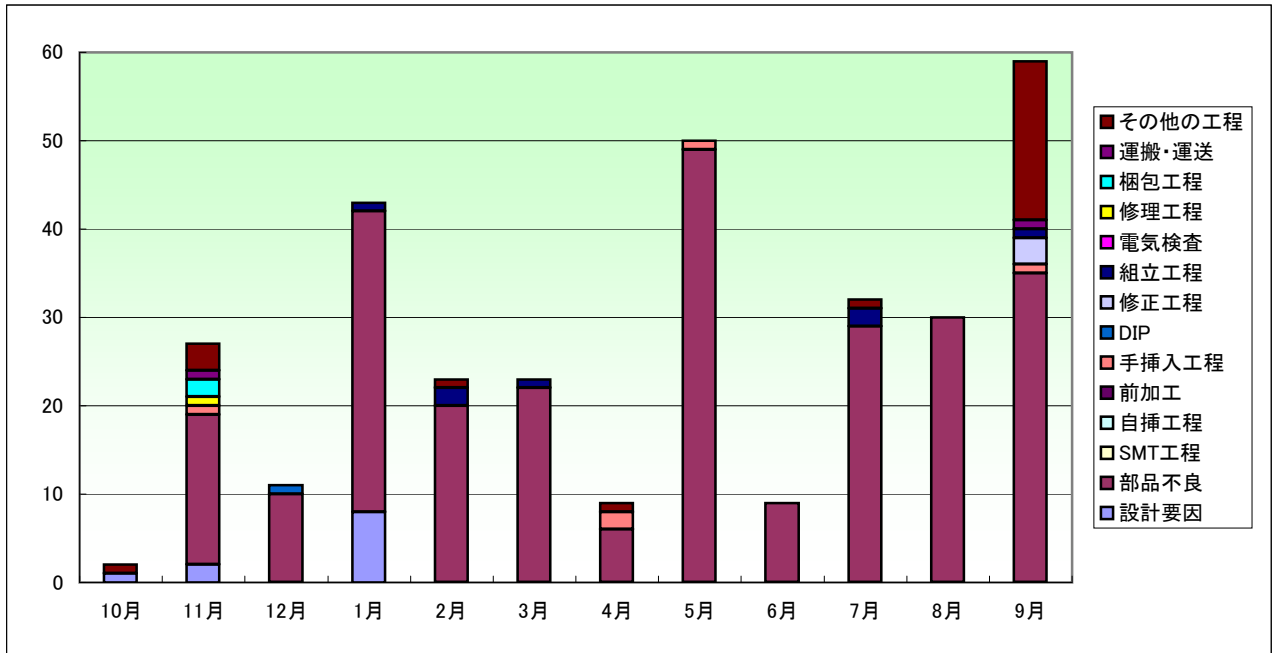


9月の単月不良発生率は59件発生で 888.06ppm です。
 部品不良 35件、原因不明 18件
 不具合の解析能力の質を上げて、対策を迅速に行なうことに注力して行きたいと思います。

品質状況詳細

原因別、並びに工程別市場不良発生状況

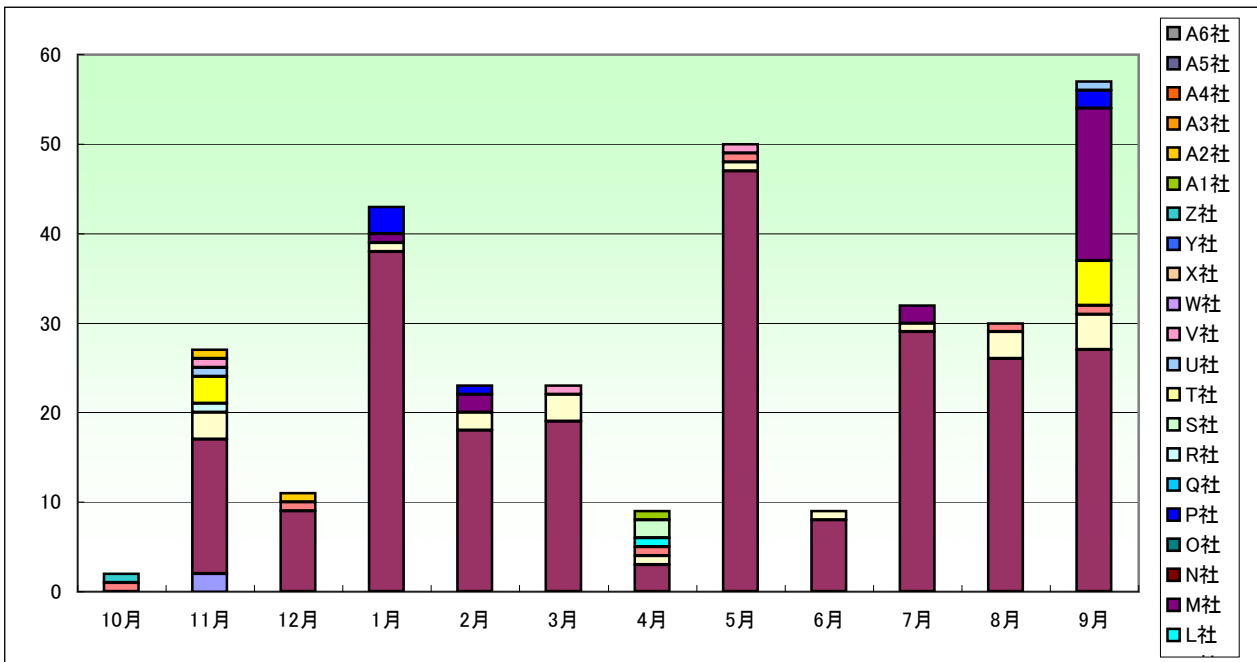
工程別不具合



9月の工程別不具合

部品不良 35件、不明 18件、修正 3件、挿入・取り扱い・組立て 各1件
 35期最終月に、最多不良数となってしまいました。
 原因不明の不良多発によるもので、至急の解析が必要です。

客先別不具合



客先別累計不良発生率

B社 239件/35,100台 (75050ppm)
 S社 2件/1,250台 (1081ppm) 変化なし
 P社 6件/3,767台 (1496ppm)

M社 22件/4,980台 (3143ppm)
 K社 8件/3,600台 (1778ppm)
 U社 2件/1,000台 (1333ppm)

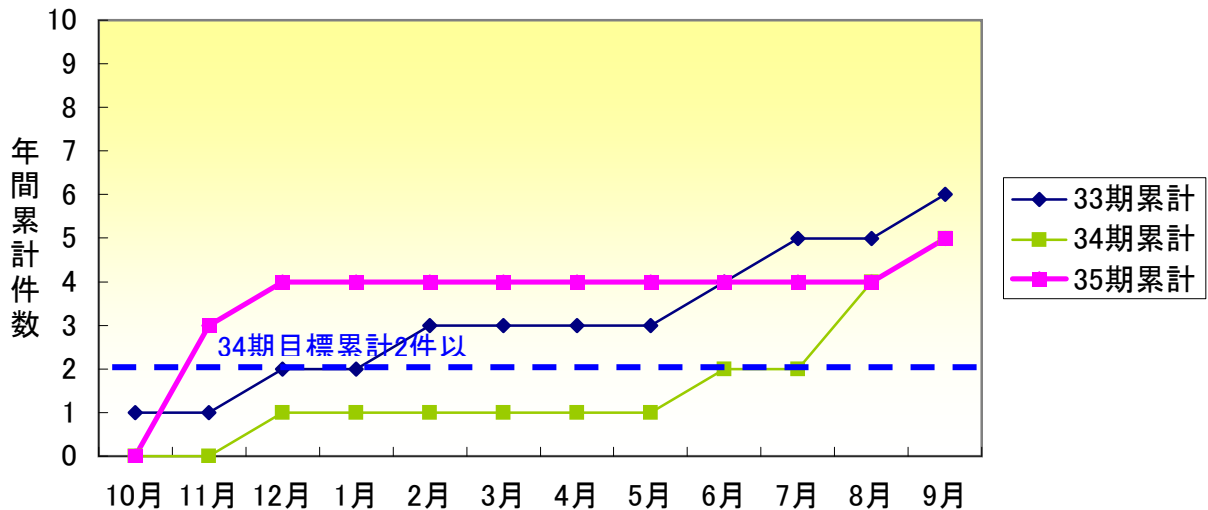
品質状況詳細

クレーム発生状況

クレーム発生推移

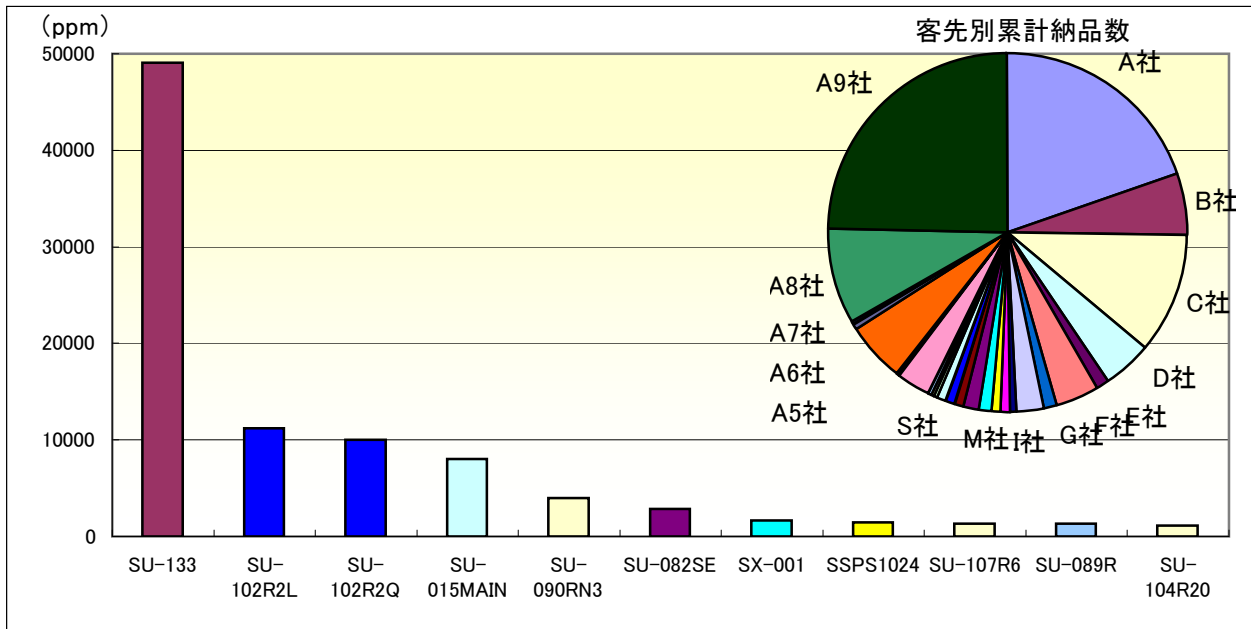
「クレーム」の定義: 当社製品がエンドユーザー様にて使用中に
当社の責任による原因で不具合が発生し、見直し・改修の場合

対前年度クレーム件数推移(35期)



原因不明の多発不良がクレームに発展したため、クレーム不良1件追加。
35期は最終的に5件のクレームで34期と同じクレーム数となりました。

機種別累計不良率



機種別累計不良率(不良率ワースト5)

順位	機種	客先	不良数/納品数	単機種不良率
①	→ SU-133	(B社)	234件/4,766台	49098ppm
②	→ SU-102R2L	(P社)	3件/267台	11236ppm変化なし
③	↑ SU-102R2Q	(P社)	1件/100台	10000ppm
④	→ SU-015	(S社)	2件/250台	8000ppm変化なし
⑤	↑ SU-090RN3	(C社)	2件/500台	4000ppm

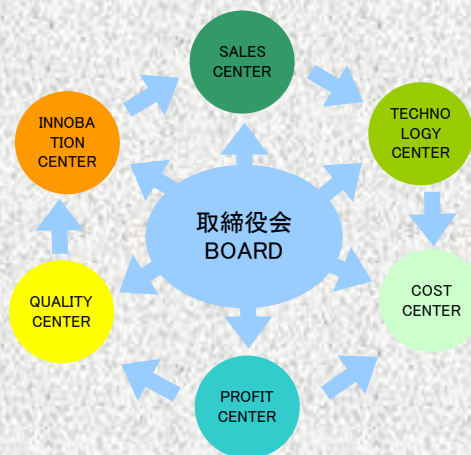
Technology Center活動報告

設計審査(DR)標準見直し実施

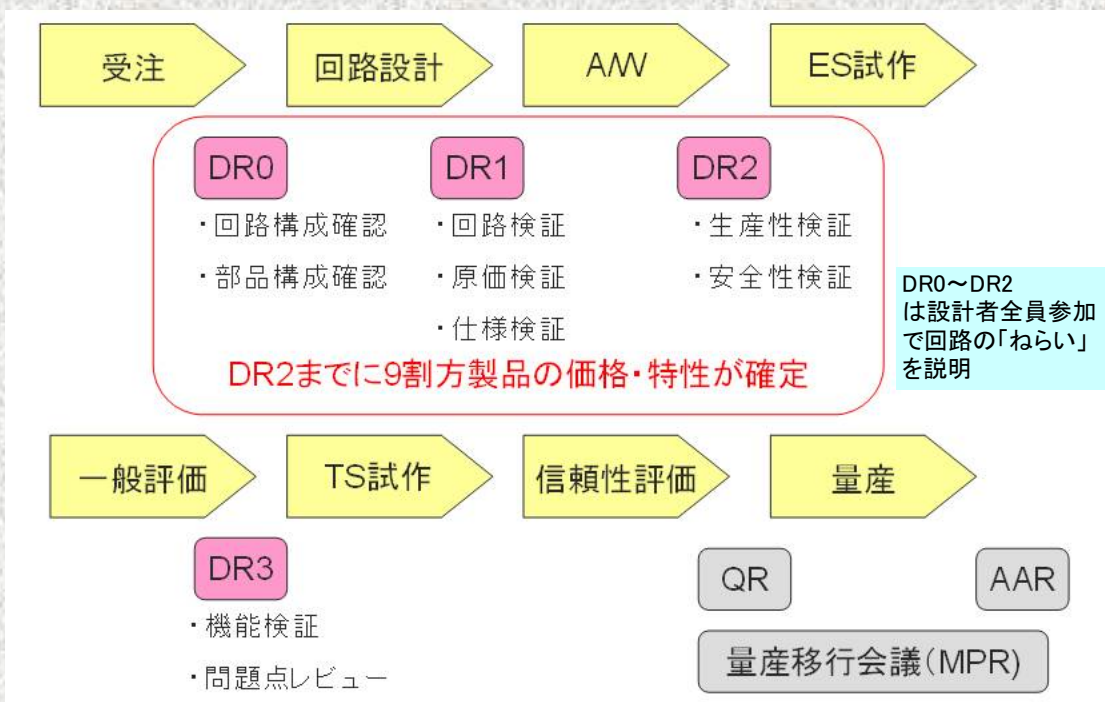
弊社では、第36期より従来の階層式の組織体系から取締役会(BOARD)を中心に各センターを周りに配したサイクル式の新組織となりました。

新組織では、すべてプロジェクト(PJT)化することにより、ミッションの明確化と共有を図ります。

Technology Center(開発技術部)のDesign PJT(開発設計G)では、DR会議の内容充実を目的に、会議の「やり方」を変更。DRの中で新人設計者教育も実施中です。



Organization Chart of SSD FY36th



スプレーフラクサー塗布状態の確認

中国の委託先工場で感熱紙を使用したスプレーフラクサーのフラックス塗布状態の確認方法をご紹介します。

始業点検時にダミー基板の上面下面に感熱紙を貼り、フラックスを塗布することにより、塗布ムラ、塗布量、基板表面へのフラックス戻りの確認を実施しています。

フラックス塗布量でDIP品質は大きく変化することから、このような方法で最もDIP品質が良い条件を見つけるのに役立っています。



コンベアスピードが同じでも、フラクサーノズルの噴射角度により発生する。

